

そば栽培暦（1年2作体系の例）


H29年1月
塩谷南那須農業振興事務所

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

生育経過

夏そば(春播き)
 キタワセソバ等 **播種** → **開花期** → **収穫**
 ※晩霜に注意し播種時期を決める。(中耕培土)

秋そば(夏播き)
 (耕起) **播種** → **開花期** → **収穫**
 (除草剤散布) (中耕培土)
 ※夏そばの後作に秋そばを作付する場合は、収穫後
 湛水するか、9~10月に定期的に中耕して
 秋そばの開花前に夏そばを除去して交雑を防ぐ。
 在来種等



作業	排水対策 石灰散布 基肥施用 耕うん・播種	中耕培土 (播種後2~3週間目)	収穫 乾燥 調製	排水対策 石灰散布 基肥施用 耕うん・播種 (8/10頃~8/25頃まで)	中耕培土 (播種後2~3週間目)	収穫 乾燥 調製
----	--------------------------------	----------------------------	----------------	--	----------------------------	----------------

作業のポイント

ほ場選定・排水対策

- 地下水水位50cm以下の排水良好なほ場を選ぶ。
- 湿害に極めて弱いので、水田の作付けでは、排水溝設置や心土破碎等により、十分な排水対策を行う。
- 連作は、雑草害・連作障害等により収量低下につながるのでできるだけ輪作に努める。

土づくり・施肥

- 土壌 pH6.0 ~ 6.5 となるように石灰資材を施用する。
- 良質な堆肥を 10a 当たり 500 kg 程度を施用する。
- 過剰施肥は倒伏を招くので注意する。

標準施肥量 (成分kg/10a)

成分	窒素	りん酸	カリ
施肥量	1~2	4	4

※土壌の肥沃度・前作等により施肥量を加減する。

耕うん・砕土・整地

- 耕起は播種直前に行う。(雑草対策)
- 砕土は丁寧にいき、砕土率を高める。(苗立向上)
(2cm以下の土塊が70%以上を目標)
- アップカッターロータリーを用いることで表層の砕土性が良くなり苗立率の向上につながる。

品種選定

- 夏そば：日長反応が鈍く、夏でも開花登熟する(キタワセソバ等)
- 秋そば：日長反応が強く短日条件で開花登熟する(在来種等)

播種

- 品種適性に合わせて、適期に播種する。

播種適期

夏そば(春播き)	4月下旬~5月中旬
秋そば(夏播き)	8月10日~25日頃

播種量

	条間	播種量
ドリル播き	30cm程度	5~6kg/10a
条播	50~60cm (播幅7~9cm)	4~5kg/10a

雑草防除

- 登録農薬が少ないため、耕種的防除が基本。

耕種的防除

- 連作をさけ、雑草の少ないほ場を選ぶ。
- 播種直前に丁寧に耕起し、残草を少なくする。
- 砕土率を高め、苗立ちを確保し、初期生育を旺盛にして短期で地上部を覆うようにする。
- 生育期間中、発生した雑草は中耕除草を行う。イネ科雑草が多発した場合は、登録除草剤を適正に使用する。
- 特に、夏そば栽培では、雑草と競合しやすいので、畝間除草等を予定しておく。

病虫害防除


- 基本的に必要ないが、アワノメイガ、ハスモンヨトウ等の多発時には、早めに登録農薬で防除する。

収穫

- 収穫時期の目安
 コンバイン …………… 黒化率80%程度
 バインダー等 …………… 黒化率60~70%
 ※刈り遅れないよう、留意する。
 ※夏そば等高水分での収穫では、脱穀・選別部に茎葉が絡みつき選別能力が低下するので、時々清掃する。

乾燥・調製

- 平型静置式乾燥機を用いる場合
 そばの風味を低下させないよう、常温通風乾燥を基本とする。
 やむを得ず火力乾燥する場合は、送風温度30℃以下で行う。
- 循環型乾燥機を用いる場合
 脱皮粒等の障害粒が発生しやすいので、穀粒が固くなる水分20%まで通風乾燥し、その後、送風温度30℃以下で通常乾燥する。
- 仕上げ水分は15~16%を目安とする。
- 唐箕選等で強く調製後、米選機で網目2.5mm程度で選別する。
- 小石等は、米用の揺動選別機で選別する。



コンバイン収穫▶